幅広く、多角的に、「人」を診る

今回、上越総合病院の総合診療科にて約１ヶ月間の臨床実習をさせていただきました。外来実習や病棟実習、救急外来など沢山の経験をさせていただいたのですが、特に印象に残ったのが外来実習と病棟実習です。

外来実習では、毎日新患外来で 2〜3 人の問診・身体診察を行い、鑑別診断を挙げ、検査をオーダーし、治療まで考えるという一連の流れを学びました。総合診療科ということもあり診た疾患は多岐に渡りますが、それ以上にいろんな患者さんがいることに気づきました。若い方からお年寄りの方まで、一人一人に適した言葉の選択や会話のスピード、声の大きさや会話の雰囲気を最適にする重要性を実感しました。先生方の診察も見学させていただいたのですが、自分以上に患者さんの悩み事や心配事に丁寧に耳を傾け、納得できるまで説明をされており、「病気を発見・治療することも大事だが、目の前の患者さんに寄り添い、不安を取り除きつつ、納得できるような医療の提供・説明が大事である」と改めて実感しました。

次に病棟実習では、10 人程度の患者さんの治療や退院までのサポートを学びました。実習を行う前は病気を治すことばかり考えていたのですが、退院後も同様の生活ができるように配慮したり同様の状態にならないように指導したりと退院のためのケアもとても大事であると気付きました。また患者さん一人一人の家庭事情を考慮し、多職種連携を通して退院後の道を模索する、いわば多角的に人を診るプロセスも勉強させていただきました。

今回、先生やスタッフの方々だけでなく患者さんも診療に協力的な方ばかりで、恵まれた環境で実習させていただきました。この感謝の気持ちを忘れず、これからも精進してまいります。上村先生を始め新潟大学総合診療学講座のスタッフの方々や上越総合病院のスタッフの方々に感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。